

豊田市資料館 郷土資料館

No. 83

Toyota City Museum
Of
Local History



「岸田吟香肖像画」 郡山市立美術館蔵

目次

・平成24年度豊田郷土資料館特別展

「明治の傑人 岸田吟香 ～日本で初めてがっぱい！目薬・新聞・和英辞書～」…………… 2

・特別展準備レポート④ 楽善堂の活動から晩年まで…………… 3

・民具調査だより-10 足助の蔵から一家庭用吸入器…………… 4

・平成24年度発見館企画展関連レポート 近代化遺産「金山揚水」と「人間模様」…………… 5

・郷土の文化財に学ぶ 一郷土学習スクールサポート事業の見学・出前授業から…………… 6

・足助の町並みでの発見 ～小路について～…………… 7

・博物館ってどんなところ？「展示って何？～博物館実習・模擬展示の試み～」…………… 7

・文化財シリーズ 83 市指定文化財 華曼・資料館 NEWS…………… 8



「東京第一所銀座通煉瓦石之図」 吟香が描かれていますが、どこにいるでしょう？（答えは裏表紙）

明治の傑人 岸田吟香

平成24年度
豊田市郷土資料館特別展

～日本で初めてがいっぱい!目録・新聞・和英辞書～

平成25年2月2日(土)～3月10日(日)

江戸時代後期、豊田市中心部を治めていた挙母藩内藤家には、美作国(岡山県)久米北条郡に飛地がありました。そこに誕生したのが岸田^{きんこう}吟香です。

吟香は江戸に出て学問修行に励み、やがて挙母藩士となります。しかし、武家社会に嫌気が差して脱藩し、その後は「日本初」となる事業に次々と関わります。『新聞紙』の創刊、辞書『和英語林集成』の刊行、液体目録^{せいぎすい}「精錡水」の販売などは特に有名ですが、文明開化の時代に吟香が先鞭をつけた事柄は、その他にも石油掘削、製氷、定期船航路、従軍記者、盲人教育、日清交流など数知れません。そのいずれもが、現代社会に生きる私たちにとっても、今なお重要な要素であることに改めて驚かされます。

吟香の残した日記や手紙、絵、新聞記事などからは、人間味にあふれる人柄と明治というエネルギッシュな時代が生き生きと甦ってきます。また、吟香の芸術肌の才能は、日本近代美術史上屈指の洋画家・岸田劉生(四男)や宝塚少女歌劇団の演出家・岸田^{たつや}辰彌(五男)などに受け継がれました。

本展では、吟香72歳のあっぱれな生涯を数々の資料からたどります。



【楽善堂】精錡水ガラス瓶・看板／引札類／生家の図(岸田劉生画)／吟香が刊行に関わった書籍・地図類

【その他】呉淞日記／横浜全図／大隈重信宛手紙／高橋由一宛手紙／掛け軸／扁額／ジョセフ・ヒコとヴァン・リードの写真(安政5年)／岸田吟香肖像画(亀井至一画)／春宵に薫る(岸田夏子画)

特別企画

■講演会「傑人吟香の魅力を語る」

吟香を知り尽くした青木先生が、べらんめえ調でその魅力を存分に語ります。乞うご期待!

講師：明治美術学会会長 青木茂先生

日時：平成25年2月9日(土)

午後2時～4時

会場：豊田市郷土資料館

■豊田市美術館特集展示「岸田劉生とその時代 1910-1930 豊田市美術館の

劉生、全部みせます」

郷土資料館特別展に合わせて、豊田市美術館においても、劉生の作品5点と同時代を飾った牧野義雄、エゴン・シーレなど国内外の画家の作品を展示します。

期 日：平成25年1月12日(土)～4月7日(日)

観覧料(常設展料金)：一般300円／大学・高校生200円
／中学生以下・市内高校生無料

期 日：平成25年2月2日(土)～3月10日(日)

観覧料：一般300円／大学・高校生200円／中学生以下・市内高校生無料／豊田市美術館半券があれば100円引き

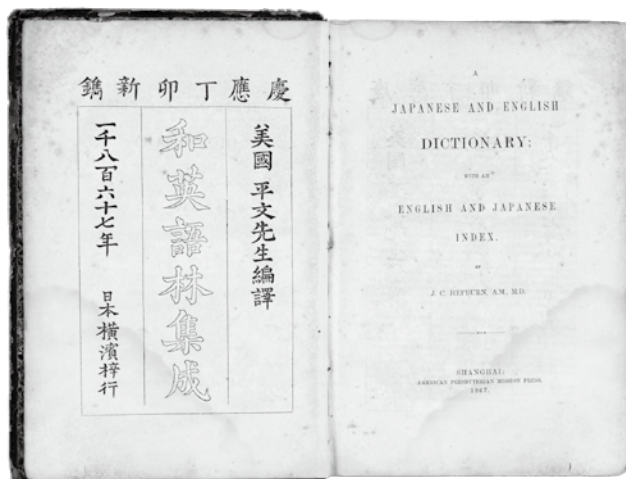
展示品：約150点 主なものは以下のとおり

【挙母藩時代】手紙／吟香の名前が記された分限帳

【辞書】英和对訳袖珍辞書(文久2年)／和英語林集成(慶応3年)／和訳英語連珠(明治6年)／英語手引草／異人言葉／和英通韻伊呂波便覧

【新聞】海外新聞(慶応元年)／万国新聞紙(慶応3年)／横浜新報もしは草(慶応4年)／渡航新聞のりあひばなし(慶応4年)／郵便報知新聞(明治5年)／東京日日新聞(明治7年)／錦絵新聞(明治7年)／東京第一名所銀座通煉瓦石之図(三代広重画)／東京銀座日報社(小林清親画)／葉剤月報(明治29年)

桁外れな行動力と魅力あふれる人間性、そして岸田吟香というとてつもなく傑出した人物が挙母藩にいたという事実を、あらためてご覧いただければ幸いです。



『和英語林集成』初版本(慶応3年)

楽善堂の活動から晩年まで

■目薬「精錡水」の発売

吟香が眼を患い、ヘボンと出会ったことによって人生が大きく開けていったことは、準備レポート②で触れたところ。日本にはなかった液体目薬を処方されると、吟香の眼は瞬間に治癒したといえます。吟香はヘボンが施す治療を手伝う中で目薬の処方を学び、『和英語林集成』を携えて上海から帰国した後の慶応3年(1867)8月から、日本初の液体目薬「精錡水」の販売を始めました。当時の日本には眼病が多く、精錡水はその効能の高さから徐々に評判となり、やがて全国に広まっていきました。精錡水は吟香が生涯を通じて販売し、吟香の代名詞ともなりました。

吟香は盲人の教育にも深い関心を抱き、明治8年(1875)には盲学校設立などを目的として、中村正直らと楽善会を組織します。この願いは明治天皇の耳にも届き、明治9年には宮内省から恩賜金3千円が下賜されました。また、『東京日日新聞』で寄付金を募り、1万1千2百円余を集めます。こうした努力が実り、明治12年には楽善会「訓盲院」が築地3丁目に完成し、翌年から授業が開始されました。

■楽善堂の活動

明治8年(1875)に『東京日日新聞』(日報社)の編集長を辞した吟香は、その北隣に精錡水調合所、後の楽善堂薬舗を設け、精錡水の販売に力を入れます。楽善堂は2階建ての立派な煉瓦家屋で、精錡水などの薬のほか、書籍や文房具も販売しました。明治10年代以降の吟香は、『清国地誌』をはじめとする書籍や地図などの出版に数多く関わっています。

明治13年には精錡水を売り広めるために中国に渡り、上海に支店を設けました。その後は福州・蘇州・漢口などにも支店や出張所を開き、書籍と薬を広く販売します。吟香は日清戦争(明治27・28年)後の日中の教育文化交流を目指した東亜同文会などの設立に尽力し、日中親善・交易に大きく貢献しました。

■広告王・吟香

精錡水などが評判になったのは、その効き目が優れていたためだけではなく、吟香の巧みな広告戦略にも支えられていたからです。ジャーナリストとして活躍していた吟香は、早くから新聞広告の有効性に気付いており、各紙に積極的に広告を打ちました。そこには、

シルクハットにタキシードを着た吟香がたびたび登場し、後ろ手に「よいお薬で五座ります」と書かれた看板を持つなど、ユーモラスな広告がたくさんあります。また、楽善堂が売り出した「檸檬水」の広告文は、「檸檬水は清涼甘美にして…若し是を氷水に點して一喫すれば如何なる山海の珍味も及ぶべき物なきが如し」で始まり、コピーライターとしての優れた資質を見せています。この広告文が「清涼飲料水」の語源とする説もあります。また、伝統的な錦絵の引札も、抜群にセンス良くつくられています。

■吟香が残したもの

晩年の吟香は、西洋列強の中国進出や中国に蔓延するアヘンを深く憂慮し、中国を支援するさまざまな活動を行っていましたが、明治38年(1905)6月、ついに72歳の大きな生涯を閉じました。

吟香は七男七女に恵まれましたが、芸術肌の才能は子供たちに受け継がれました。「麗子像」などで知られ、日本の近代美術史上屈指の洋画家である岸田劉生は四男、宝塚少女歌劇団で日本初のレビューを上演した岸田辰彌は五男になります。

吟香の口癖は「ままよ」でした。体制側とは常に距離を置き、政治的にはではなく常に人々の視線で現状を見つめる。議論ではなく常に行動する。そして時機を見た決断と並外れた行動力。やると決めたら常に時代の先頭を走る。傑人吟香の根底にあったものは、まさに「ままよ」の心意気だったのでしょう。(森泰通)



精錡水の瓶
(ボトルシキアター蔵)



『東京日日新聞』
明治11年11月11日

足助の蔵から一家庭用吸入器

寒さが厳しさを増す、冬真ただ中の1月・2月、風邪を引いてはいませんか？現在の私たちは、風邪に罹らないようにうがいをしたり、マスクをかけたりします。そして運悪く風邪を引いてしまった場合は病院の耳鼻咽喉科などのお世話になります。さらに予防措置でワクチン接種なども受けたりします。

怪しげな道具

さて、豊田市内各地域の資料館で民具調査・登録を行ってきましたが時々“吸入器”が姿を現します。初めて、これを目にした時は「なんか、あやしい物が出てきたぞ～、なんか実験器具みたいだぞ」といぶかっていましたが、ある時これを収める箱が見つかり、瞬時に疑問が解決しました。そういえば喉を痛めた時、これに似たジェット式ネブライザーという器具で治療をしてもらったことがありました…。

今回は足助の旧紙屋鈴木家と旧田口金八家の両家の蔵から完全な状態の“吸入器”が出ましたので紹介します。

流行性感冒で

大正7年～8年(1918～1919)に日本で流行性感冒(新型インフルエンザ)が猛威を振るい、この時の政府のポスターには『恐るべし「ハヤリカゼ」のバイキン!』『マスクをかけねば命知らず』とあったそうで、布製の黒いマスクの使用が励行されたようです。さらに昭和2年(1927)の1月、東京を中心に流行性感冒が大流行し、患者数37万人、肺炎などによる死亡者は約1万7000人に達しました。この時、白いガーゼのマスクと家庭用吸入器が大量に売れ広く普及しました。

家庭用吸入器とは

昭和の初期には健康保険制度もなかったもので、医者にかかる人も少なく、風邪引いて熱が出れば火鉢などで部屋を暖めつつ薬缶の蒸気を利用したり、水枕や氷



『家庭用吸入器』一式

旧紙屋鈴木家住宅収蔵品

嚢で頭を冷やし熱の下がるのを待つのが普通でした。

家庭用の蒸気式吸入器には電気式、ガス式、アルコール・ランプ式とがありましたが、アルコール・ランプ式のものが使い勝手が良く、広く普及したようです。蒸気圧でカルシウム粉末や、ほう酸水などを霧状にして吸入させる道具です。喉が炎症をおこすと、痰がからんだり、咳が出たりします。こんな時、蒸気を吸引することで炎症が治まったり、痰が軟らかくなり出やすくなります。また、風邪が流行すると、予防のために吸入器を利用しました。吸入器の前に座らされた子供は、小さなコップに入った薬液が早くなくならないかなーと思いながら我慢をしたようです。

アルコール・ランプ式の吸入器には、『ワイケー式実用吸入器』『O.B吸入器』『大川式安全吸入器』など微妙な違いがありますが、多様な製品がありました。収める箱には、申し合わせたように“公(官)私立各病院御用命品”とあるのが大変面白い。

昭和の初期に普及した実験器具のような吸入器は、蒸気の発生の仕組みや薬剤の素性が目で確認できますので、現在のブラックボックス的な機器よりも優れているような気がしませんか？

(東海民具学会・岡本大三郎)



『都吸入器』 Wφ98 H210 D230
旧田口金八家住宅収蔵品



『吸入剤カンピロン』の瓶
Wφ64 H180
旧紙屋鈴木家住宅収蔵品



『吸入器用前掛』の袋 W103 H167 t0.3
使い方の様子がよく解ります
旧田口金八家住宅収蔵品

近代化遺産「金山揚水」と「人間模様」

豊田市南西部を流れる逢妻男川と女川の合流地点に雑木に覆われた小高い丘があります。この奥には、豊田・刈谷・知立の三市に跨る丘陵地帯が続いています。ここに、明治の男達が、開拓に懸けた汗と気概を感じさせる金山揚水の遺構があります。

高台の原野に水の恵みを

この周辺の人びとは、眼下に逢妻川の水を眺めながらその恵みが受けられず、細々と暮らしていました。何としても水を引揚げ、林野をみどり濃き農耕地にしたいと願っていました。特に明治42年(1909)には、数十日雨なしの大旱魃^{かんばつ}に見舞われました。高台に水をとという声が増しに高まりました。



題額を仕上げた棟梁たち

金山揚水耕地整理組合の発足

明治44年(1911)6月「金山揚水耕地整理組合」の設立総会が開催され、初代組合長に札幌農学校出身の内藤乾蔵、副組合長に都築重治郎らが選出され、発足しました。多くの人びとの協力で、翌年の7月には通水式を行い、待望の水が高台の用水路を走りました。

揚水施設の概要と変遷

当初の揚水施設は、評判の高かった英国製ボイラーを使用して、蒸気を動力にポンプで、標高差16mほどの高台まで水を押し上げました。

このボイラーは、高さ約3m、長さ8m、煙突も21mという大掛かりなもので、日露戦役の軍艦ボイラーマンが操作しました。

多くの苦難と変遷

この揚水事業も、当初は、周辺集落の理解が得られず、大地主の反対や組合への融資不足や蒸気機関の増設・石炭の高騰等で採算が合わず、大正8年(1919)には、やむなく電力に転換しました。



ボイラーを設置して試運転中の関係者。右奥は題額

昭和30年代には河川の水質汚濁が注目され、愛知用水を導入し、受益面積も最終的には356ha、組合員数533名におよび、見事な水田や梨などの果樹園が広がる一大農産地となりました。

金山揚水の人間模様

金山揚水場を取り巻く人間模様には、明治の個性あふれる名優達の存在を窺い知ることができます。初代組合長退職後、朝鮮京城で農業の機械化に取り組む乾蔵、彼の厳父で自由民権運動の闘士内藤魯一、1万回の農村自主の講演を誇る山崎延吉、魯一の盟友で運河を開鑿^{うかが}する早川啓次郎、村長職を投げ棄て逢見の原野に単身移住し組合長として終生を捧げる都築重治郎。そして、奇しくも組合発足の日に終焉を迎えた魯一の葬儀には、板垣退助・後藤新平・西園寺公望等々の弔辞が続くという人間ドラマが展開されました。

そして現在

揚水場跡には、数mに及ぶ重厚なレンガ積みの壁や直径50cmほどの朽ちかけた送水管が続き、頂上付近の噴出口には幅3mの堂々とした題額が掲げられ、明治の男たちの夢と心意気を偲ばせています。

金山揚水事業が竣工して100年。地元の人びとにより、史跡案内碑の設置や通路の整備などが行われ、次世代に語り継ぐ活動が始まっています。

(文化財保護審議会委員 近藤銈司)

発見館企画展「待望の水、水路を走る～竣工100周年を迎える近代化遺産・金山揚水～」開催中！！

場所：発見館(喜多町4-45)

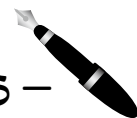
期間：平成24年12月11日(火)～平成25年3月10日(日)

休館：毎週月曜日(祝日は開館)

時間：9時～17時



郷土の文化財に学ぶ



ー郷土学習スクールサポート事業の見学・出前授業からー

曾根遺跡公園で学ぶ

豊田市郷土資料館では、平成24年度も小中学校から郷土学習スクールサポートの依頼を受け、郷土資料館や発見館、遺跡の見学、出前授業などを実施してきました。小学校6年生は4月に歴史学習が始まり、6月にかけての間、多くの小学校が曾根遺跡公園(森町)へ見学に訪れました。曾根遺跡公園では、学校見学に対応して復元住居を開錠して内部へ入り、たて穴住居の雰囲気味わうことができますようにしています。



＜曾根遺跡で学芸員の話聞く東山小6年生＞

天気の良い日は、見学場所で体験用の縄文土器やどんぐりを一緒に観察し、関連付けて学ぶことができるようにすることで、子どもたちは、縄文時代の人々の生活に思いをはせていました。

曾根遺跡公園には、移築された円墳の香久礼古墳や隣接地にある八柱社古墳も見学できるので、縄文から古墳時代にかけての学習ができる、市内の歴史学習エリアの一つです。訪れた小学校の先生方の参考意見を取り入れながら、来年度に向けて「曾根遺跡公園で学ぶ歴史体験プログラム」のバリエーションを増やしていく予定です。

地域学習をサポート

小中学校の先生方は、社会科や総合的な学習の時間を活用して、身近な地域の史跡や文化財に着目し、教材化した学習活動を展開しています。西保見小6年生の地元の矢遠古墳(保見町)の見学や、古瀬間小6年生の大窪遺跡(志賀町)の見学には学芸員が案内と説明に同行しました。飯野小3年生が、茅葺屋根を修復中の旧山内家住宅(藤岡飯野町・県指定)を見



＜旧山内家住宅の見学＞

学に訪れた際には、地元の高齢者ボランティアで組織する地域学習サポーターが体験を交えて見学案内にあたり、地域ぐるみで地元の文化財や昔の暮らしを受け

継ぐ光景が見られました。萩野小6年生は出前授業で学んだ「萩野の歴史」の学習を足がかりに、半年に及ぶ地域探索で馬頭観音の分布や中馬街道の解明に取り組んできました。

藤岡南中や藤岡中の1年生は、毎年恒例となっているミステリーツアーで市内の史跡や文化財を1日かけて見学して回ります。与えられた課題をもとに予想を立て、実際に百々貯木場(百々町)を探索したり七州城隅櫓跡(小坂本町)に登ったりしながら疑問を解決するなど、小学生とはちがったテーマ学習をサポートしました。

教員研修で古文書読解のサポート

地域に残る文化財の理解と歴史学習の教材化をめざして、8月には豊田市教育研究会からの依頼をもとに夏季実技研修会(社会科)で、文化財課学芸担当職員が小中学校の教員対象に古文書読解講座を実施しました。



＜夏季実技研修会で古文書の読解講座＞

菅沼家(松平町)や鈴木家(足助町)に残された幕末期の文書の読解から、ペリー来航の対応がこの地方にも及ぶ混乱を解明しました。地元に残る文化財から歴史にせまる醍醐味を先生方にも味わってもらいました。

新しい学習をめざして

小中学校の授業でも、提案されたプログラムを取り入れるだけでなく、研修会や出前授業、資料貸出などをきっかけにして、新たな展開を模索する先生方も増えてきました。浄水小3年生は、地元に残る井戸や水の学習を発展させて古い道具の体験へとつなげる実践に取り組んでいました。市木小5年生は、米作りの学習に古い道具の脱穀体験や、高齢者に学ぼうら縄作りなどの体験学習を取り入れています。子どもたちがより魅力を感じる郷土学習スクールサポートを、これからも模索していきます。(西崎 修)

足助の町並みでの発見 ～小路について～

足助の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから1年半が過ぎましたが、みなさんは足助の町並みに訪れていただけたでしょうか。

足助の町並みには様々な特徴がありますが、その1つに、「小路」があげられます。

足助の町並みの小路は、中馬街道から山側、足助川側に延びており、土蔵の側面に挟まれているところや、主屋や付属屋の壁に挟まれているところがあります。

狭い道の先に見える山側では裏路地が見え、また川側には足助川が見えて、小路の高低差によって覗かせる景色には街道沿いの雰囲気と違ったすばらしさがあります。

季節によっては、遠くの山々が色づくとともに素晴らしい風景を小路から見せてくれます。

足助にはマンリン小路、エビヤ小路、地蔵小路など多くの小路が存在します。特にマンリン小路はよくテレビなどにも取り上げられますが、土蔵が小路沿いに並び建ち、腰板張りの黒色と漆喰壁の白色がきれいに交ざりあって落ち着いた雰囲気をかもし出してくれま

す。山側から見下ろす風景と街道沿いから見上げる風景とではまた違ったものを感じさせてくれます。

エビヤ小路はマンリン小路とは違い川に通じていて、小路の先に足助川のせせらぎを覗くことができます。地蔵小路は、地蔵堂壁と主屋や付属屋の壁に挟まれ、山側を覗くと、その先に階段があり裏路地を見させてくれます。

足助の町並みをご覧くださいことがあれば、街道沿いに立ち並ぶ町家はもちろんのこと、ぜひ小路にも足を運んでみてください。小路はまだ他にもありますので、それぞれ違った風景や新しい発見があると思います。



マンリン小路（新町） エビヤ小路（本町） 地蔵小路（本町）

博物館ってどんなところ？

「展示って何？～博物館実習・模擬展示の試み～」

豊田市郷土資料館をはじめ、博物館では資料や作品を「展示」します。この展示ってどういう事なのでしょう？「モノ」を並べれば「展示」でしょうか？

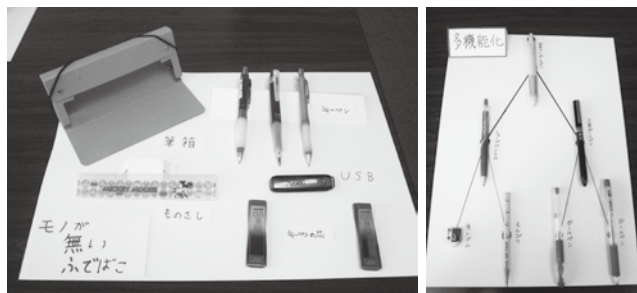
私たち博物館・資料館は展覧会を開催する時には、みなさんに「伝えたい事」「感じてほしい事」があります。それを「モノ＝資料」を示す事で伝える・見せるのです。例えば、地域の江戸時代の暮らしがテーマであれば、年貢の古文書、借金証文などで分かることがあります。

また、「モノ＝資料」そのものが何かを語る時もあります。例えば、迫力ある指定文化財の仏像そのものを見ることで、彫刻の造形美や紋様の美しさを感じることができます。素材の古さからは長い年月の経過を感じることもできるでしょう。さらに展示の方法によっても受け止め方は変わってきます。

こうした「展示」について考える機会として豊田市郷土資料館では大学生向けに行っている博物館実習において模擬展示の実習を行っています。

この模擬展示は実習生にA3の紙を2枚渡し、自分の筆箱を使って展示空間を作るといふものです。作業を行う中で、特徴を抽出しテーマを考え、展示を構成するという過程を経験します。さらにそれを限られた空間でよりわかりやすく見せるという工夫も必要になってきます。学生たちは個性溢れる展示を行います。学生の作品から、私たちは工夫や新しい着眼点を知ることができ、「展示」について見直す機会となります。

展覧会を御覧になりながら少し会場内を見回してみると、展示方法の工夫の跡が見えるかも知れません。



「実習生の展示作品」

文化財シリーズ

83

豊田市指定文化財 華蔓

華蔓とは仏殿の長押などに懸け、空間を美しく厳かに飾り立てる荘厳具です。もとはインドの風俗で、生花を糸でつないで身体を飾ったものが仏具に転じたといわれています。材質は銅製のものが最も多く、木製のもの、布製のもの、皮革製のもの、玉を連ねたものなどもあります。また形状は団扇型が主流であり、ほかには花を連ねた花輪型があります。

隣松寺(幸町)の華蔓は、渡金(金を用いて銅に焼き付け、めっきすること)を施した赤銅の板を切り抜いて作られており、鑿で線彫りした技法が用いられています。透彫の文様は蓮華・蓮葉と水が表現されており、中央には先端に房の付いた2本の紐を結わえて垂らした形状をかたどった総角が表されています。

ます。これはかつて生花を連ねた紐の名残と見られます。

慶長12年(1607)、徳川家康の四男で清洲城主であった松平忠吉が27才で他界したことを悲しんだ養母於みつ(鴛鴨松平氏)が、菩提を弔うため、隣松寺に寄進したものです。



資料館NEWS

豊田市民俗芸能大会開催

11月3日(土)、豊田市稲武郷土資料館(ちゅーま)横に設置した屋外ステージにて、豊田市民俗芸能大会を開催しました。民俗芸能大会は、市内に伝わる民俗芸能を広く紹介し、その保存と伝承を図るとともに、民俗芸能への理解と認識を深め、地域の民俗芸能に参加するきっかけづくりを目的として開催しています。5回目となる今年は、県・市指定の無形民俗文化財、あるいは市伝統的郷土芸能の認定を受けた6団体が、豊田市内各地に伝わる棒の手、雅楽、囃子、万歳、太鼓の各民俗芸能を披露しました。

当日は風が強く、肌寒い中ではありましたが、民俗芸能を見ようと多くの人が来場していました。また、会場ではどんぐりの里いなぶが出張販売を行い、賑わいに一役買っていました。

○出演団体

西山万歳保存会

大沼雅楽会

山中祭り太鼓保存会

藤沢水神囃子保存会

足助五反田棒の手保存会

稲武廻り太鼓クラブ

市伝統的郷土芸能

市指定無形民俗文化財

市伝統的郷土芸能

市伝統的郷土芸能

県指定無形民俗文化財

市伝統的郷土芸能



<稲武廻り太鼓クラブ>

利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分

とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ徒歩5分

駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.83■

平成25年1月23日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565) 32-6561 FAX (0565) 34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: <http://www.toyota-rekihaku.com>

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。